



Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook 5.0(1) リリースノート

Published June 15, 2007

このリリース ノートには、Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook 5.0(1) のシステム要件、ダウンロードとインストールの手順、新規および変更されたサポート、新規および変更された機能、制約と制限事項、および未解決の警告と解決済みの警告が記載されています。

各言語の ViewMail 5.0(1) のファイルは、ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページ (<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/unity-vmo>) でのみ入手できます。



(注)

ViewMail 5.0(1) の英語 (アメリカ合衆国) 版は、Cisco Unity 5.0(1) DVD 1 でご利用いただけます。Software Center Web サイトにフルアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログインする必要があります。

目次

- [要件 \(P.2\)](#)
- [関連資料 \(P.3\)](#)
- [新規および変更された要件とサポート : Release 5.0\(1\) \(P.3\)](#)
- [新規および変更された機能 : Release 5.0\(1\) \(P.4\)](#)
- [インストールとアップグレードに関する情報 \(P.5\)](#)
- [制約および制限事項 \(P.16\)](#)
- [警告 \(P.19\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.20\)](#)



要件

- ViewMail をインストールするには、ユーザ ワークステーションのローカル管理者権限を持っている必要があります。
- ユーザ ワークステーションには、ViewMail で使用する言語ごとに 2.5 MB 以上のハードディスク空き領域が必要です。
- ViewMail をインストールする際は、ユーザ ワークステーションで Outlook を実行しないでください。また、ウイルス検出サービスを無効にしてください。
- ViewMail 5.0(1) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 3.x をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。P.16 の「ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない」を参照してください。
- ViewMail 5.0(1) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。P.7 の「以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) の削除」を参照してください。

互換性に関する情報

- ViewMail for Outlook、Cisco Unity (Exchange 版)、およびユーザ ワークステーション上のソフトウェアとの適合性が確認されたバージョンの組み合わせに関する情報 (ViewMail バージョン 5.0(1) リリース以降に確認された組み合わせ、およびユーザ ワークステーション上のソフトウェアのサポート ポリシーを含む) については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/products_device_support_tables_list.html にある『互換性マトリックス: Cisco Unity とユーザ ワークステーション上のソフトウェア』を参照してください。
- ViewMail 5.0(1) リリースで使用できる言語のリストは、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_release_notes_list.html にある『Cisco Unity リリースノート Release 5.0(1)』の「Cisco Unity コンポーネントで使用できる言語」の項を参照してください。

ViewMail バージョンの特定

ユーザ ワークステーション上で使用している ViewMail のバージョンを特定する方法は 2 つあります。該当するいずれかの手順を実行します。

使用している ViewMail のバージョンを[アプリケーションの追加と削除]から特定する (ViewMail バージョン 4.05 以降のみ)

ステップ 1 ユーザ ワークステーションで、[設定] > [コントロール パネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択します。

ステップ 2 [現在インストールされているプログラム] リストで、ViewMail for Outlook を検索します。

使用している ViewMail のバージョンを Outlook から特定する

ユーザ ワークステーション上の Outlook 受信トレイで、[ヘルプ] メニューの [バージョン情報] をクリックします。

関連資料

Cisco.com 上の Cisco Unity のドキュメントに関する説明と URL については、『*Documentation Guide for Cisco Unity*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity に同梱されており、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/products_documentation_roadmaps_list.html でも入手できます。

新規および変更された要件とサポート：Release 5.0(1)

Microsoft Outlook 2007

Microsoft Outlook 2007 は、ユーザ ワークステーション上での ViewMail 5.0(1) の使用の適合性が確認されています。

Microsoft Windows Vista

Microsoft Windows Vista は、次のバージョンのみ、ユーザ ワークステーション上で ViewMail 5.0(1) を使用する際の適合性が確認されています。

- Windows Vista Enterprise (x86)
- Windows Vista Business (x86)
- Windows Vista Business N (x86)

Microsoft Windows Vista は、以前のバージョンの ViewMail ではサポートされていません。

新規および変更された機能 : Release 5.0(1)

プライベート メッセージは転送できない

ViewMail の使用時は、プライベートのフラグが立てられているボイス メッセージは転送できません。ViewMail をユーザがインストールしていると、Microsoft Outlook でプライベートのフラグが立てられた電子メールの転送をできたとしても、プライベート ボイス メッセージを転送できなくなります。以前のバージョンの ViewMail ではプライベート メッセージを転送できました。

メッセージの保護

バージョン 5.0(1) から、ViewMail は保護されたメッセージの再生および録音が可能になりました。ViewMail 5.0(1) は、Cisco Unity のバージョン 5.0(1) 以降で暗号化されたメッセージのみ再生できます。ViewMail では Cisco Unity のバージョン 4.x で暗号化されたメッセージは再生できません。

バージョン 5.0(1) から、ViewMail は保護されたメッセージの再生および録音が可能になりました。ユーザが Cisco Unity のバージョン 4.x を使用している場合は、ViewMail で保護されたメッセージは再生できません。Cisco Unity 5.x を使用している場合は、同一ネットワーク上のバージョン 4.x または 5.x のいずれかの Cisco Unity サーバから送信された保護されたメッセージは ViewMail で再生できます。

[ViewMail オプション] ダイアログボックスに [メッセージの保護] という新しいタブが追加されました。ユーザは、使用する Windows のユーザ名とパスワードとともに、Unity サーバのサーバ名とドメインをこのタブで指定できます。この情報は、ViewMail を初めて起動したときに最初に収集されます。ユーザの Cisco Unity システムがメッセージの保護を使用する設定の場合、ユーザが Cisco Unity サーバから受信したり暗号化メッセージを送信したりするたびに、ViewMail は、この情報を使用して暗号化された証明書とメッセージの保護の設定を検索する必要があります。

ViewMail 5.0(1) でメッセージの保護機能を使用するには、ViewMail のインストールをカスタマイズしてからユーザワークステーションにインストールする必要があります。そうしないと、ViewMail は暗号化されたメッセージの送信や再生ができません。詳細については、P.11 の「メッセージを保護するために ViewMail をカスタマイズする」を参照してください。

メッセージの保護機能の詳細については、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_maintenance_guides_list.html にある

『Cisco Unity セキュリティ ガイド』の「ユーザメッセージの保護」の章を参照してください。

インストールとアップグレードに関する情報

- [ViewMail 5.0\(1\) を初めてインストールする際のタスク リスト \(P.5 \)](#)
- [ViewMail 5.0\(1\) へアップグレードする際のタスク リスト \(P.6 \)](#)
- [ViewMail 5.0\(1\) へアップグレードする際の考慮事項 \(P.7 \)](#)
- [ViewMail 5.0\(1\) のダウンロード \(P.8 \)](#)
- [ViewMail インストールのカスタマイズ \(P.9 \)](#)
- [ViewMail 5.0\(1\) のインストール \(P.14 \)](#)

ViewMail 5.0(1) を初めてインストールする際のタスク リスト

ViewMail 5.0(1) を新規にインストールする場合は、次のタスクを順に実行してください。

1. ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページから ViewMail をダウンロードします。P.8 の「[ViewMail 5.0\(1\) のダウンロード](#)」を参照してください。
2. メッセージの録音に G.729a 形式を使用しない場合は、タスク 3. に進みます。
メッセージの録音に G.729a 形式を使用する場合は、ViewMail をカスタマイズします。P.9 の「[メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail をカスタマイズする](#)」を参照してください。

**注意**

ViewMail をカスタマイズしてから、ソフトウェアをインストールする必要があります。ViewMail バージョン 4.2(2) 以降がすでにインストールされている場合は、その版をアンインストール後、カスタマイズ版を再インストールしてメッセージの録音に G.729a 形式を使用します。

3. Cisco Unity 5.0(1) でメッセージの保護機能を使用しない場合は、タスク 5. に進みます。
ViewMail でメッセージの保護機能を使用するには、ViewMail のインストールをカスタマイズしてからユーザ ワークステーションにインストールする必要があります。そうしないと、ViewMail は暗号化されたメッセージを送信できません。詳細については、P.11 の「[メッセージを保護するために ViewMail をカスタマイズする](#)」を参照してください。

**注意**

ViewMail をカスタマイズしてから、ソフトウェアをインストールする必要があります。ViewMail バージョン 5.0(1) 以降がすでにインストールされている場合は、その版をアンインストール後、カスタマイズ版を再インストールしてメッセージの保護機能を有効化します。

4. ViewMail が RPC 接続で使用する TCP ポートをメッセージの保護のために変更しない場合は、タスク 5. に進みます。
ViewMail 5.0(1) でメッセージの保護機能を使用する場合は、ViewMail が Cisco Unity に RPC 接続する際に使用する TCP ポートをオプションでカスタマイズできます。詳細については、P.12 の「[ViewMail がメッセージの保護に使用する RPC 接続用に TCP ポートをカスタマイズする](#)」を参照してください。



注意

ViewMail をカスタマイズしてから、ソフトウェアをインストールする必要があります。ViewMail バージョン 5.0(1) 以降がすでにインストールされている場合は、その版をアンインストール後、カスタマイズ版を再インストールして別の TCP ポートを使用します。

5. ViewMail 5.0(1) をインストールします。P.14 の「ViewMail 5.0(1) のインストール」を参照してください。

ViewMail 5.0(1) へアップグレードする際のタスク リスト

ViewMail の以前のバージョンを 5.0(1) へアップグレードする場合は、次のタスクを順に実行してください。

1. P.7 の「ViewMail 5.0(1) へアップグレードする際の考慮事項」を確認し、必要に応じて、バージョン 3.x または 2.4(6.x) をアンインストールします。
2. ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページから ViewMail をダウンロードします。P.8 の「ViewMail 5.0(1) のダウンロード」を参照してください。
3. ViewMail バージョン 4.2(2) 以降からアップグレードしている場合で、メッセージの録音に G.729a 形式を使用しない場合は、タスク 4. に進みます。

メッセージの録音に G.729a 形式を使用する場合は、ViewMail をカスタマイズします。P.9 の「メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail をカスタマイズする」を参照してください。



注意

ViewMail をカスタマイズしてから、ソフトウェアをインストールする必要があります。ViewMail バージョン 4.2(2) 以降がすでにインストールされている場合、メッセージの録音に G.729a 形式を使用するには、設定管理ツール (Microsoft Systems Management Server など) を使用して既存のインストールをカスタマイズするか、ViewMail をアンインストールしてからカスタマイズ版を再インストールする必要があります。

4. Cisco Unity 5.0(1) でメッセージの保護機能を使用しない場合は、タスク 6. に進みます。

ViewMail 5.0(1) でメッセージの保護機能を使用するには、ViewMail のインストールをカスタマイズしてからユーザ ワークステーションをアップグレードする必要があります。そうしないと、ViewMail は暗号化されたメッセージを送信できません。詳細については、P.11 の「メッセージを保護するために ViewMail をカスタマイズする」を参照してください。



注意

ViewMail をカスタマイズしてから、ソフトウェアをインストールする必要があります。ViewMail バージョン 5.0(1) 以降がすでにインストールされている場合、メッセージの保護機能を有効化するには、設定管理ツール (Microsoft Systems Management Server など) を使用して既存のインストールをカスタマイズするか、ViewMail をアンインストールしてからカスタマイズ版を再インストールする必要があります。

5. ViewMail が RPC 接続で使用する TCP ポートをメッセージの保護のために変更しない場合は、タスク 6. に進みます。

ViewMail 5.0(1) でメッセージの保護機能を使用する場合は、ViewMail が Cisco Unity に RPC 接続する際に使用する TCP ポートをオプションでカスタマイズできます。詳細については、P.12 の「ViewMail がメッセージの保護に使用する RPC 接続用に TCP ポートをカスタマイズする」を参照してください。



注意 ViewMail をカスタマイズしてから、ソフトウェアをインストールする必要があります。ViewMail バージョン 5.0(1) 以降がすでにインストールされている場合、別の TCP ポートを使用するには、設定管理ツール (Microsoft Systems Management Server など) を使用して既存のインストールをカスタマイズするか、ViewMail をアンインストールしてからカスタマイズ版を再インストールする必要があります。

- ViewMail 5.0(1) をインストールします。P.14 の「ViewMail 5.0(1) のインストール」を参照してください。

ViewMail 5.0(1) へアップグレードする際の考慮事項

ユーザは ViewMail バージョン 5.x を使用するための特殊な Class of Service (COS; サービスクラス) 特権やパスワードを持つ必要はありません。ViewMail をインストールしたすべての Cisco Unity コニファイドメッセージユーザが使用できます。

ViewMail 5.0(1) へアップグレードする前に、以前のバージョンに関して次の事項を考慮してください。

- ViewMail バージョン 5.0(1) にアップグレードするために、バージョン 4.x をアンインストールする必要はありません。ViewMail 5.0(1) のインストールにより、以前にインストールした ViewMail バージョン 4.x は自動的に削除されます (ViewMail 4.x の削除時に問題が発生した場合は、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_tech_notes_list.html にあるテクニカル ノート「Cisco Unity VMO Is Installed, But Not Published in Outlook」で、ViewMail を手動でアンインストールする方法に関する項を参照してください)。テクニカル ノートでは ViewMail のアンインストール手順は ViewMail バージョン 3.0.1 および 4.0.1 に適用されるとしていますが、ViewMail バージョン 4.x および 5.x には適用されません。
- ViewMail 5.0(1) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 3.1(x) または 3.0(x) をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。ViewMail 3.x は、ViewMail 5.0(1) へのアップグレードと同時にアンインストールできます。または、Windows の [アプリケーションの追加と削除] を使用して削除できます。ただし、アプリケーションを完全に削除するには、さらに手順を実行する必要があります。P.16 の「ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない」を参照してください。
- ユーザが ViewMail 2.4(6.x) を使用している場合は、バージョン 5.0(1) をインストールする前に、「以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) の削除」の手順に従って ViewMail をアンインストールしてください。

以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) の削除

ViewMail 5.0(1) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) および関連する LightningFAX レジストリ キーをユーザ ワークステーションから削除する必要があります。

ViewMail を削除すると、ユーザが受け取る最初のボイスメッセージは、ViewMail アイコンの付いたボイスメッセージとして表示されます。ユーザがボイスメッセージを開くと、そのボイスメッセージの形式は使用できないというエラーメッセージが Outlook によって表示されます。ただし、このエラーメッセージが表示されても、ユーザはボイスメッセージを開くことができます。

2 通目以降のボイスメッセージは、ViewMail アイコンのない WAV 添付ファイル付きの電子メールメッセージとして表示されます。ユーザがメッセージを開いたときにエラーメッセージが表示されることはありません。

ViewMail バージョン 2.4(6.x) および関連する LightningFAX レジストリ キーを削除する

- ステップ 1** ViewMail を実行している各ユーザ ワークステーションで、Windows の [スタート] メニューから、[設定] > [コントロール パネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択します。
- ステップ 2** [現在インストールされているプログラム] リストで、[ViewMail for Outlook] をクリックしてから [変更 / 削除] をクリックします。
- ステップ 3** 画面の指示に従って ViewMail for Outlook を削除します。DLL などの共有ファイルの削除を確認するプロンプトが表示されたら、[すべていいえ] をクリックします。
- ステップ 4** システムが LightningFAX を使用していなかった場合は、この手順は終了です。

システムが LightningFAX を使用していた場合は、Regedit を起動します。



注意 不正なレジストリ キーの変更や、不正な値の入力によって、ワークステーションが起動しなくなることがあります。レジストリを編集する前に、問題発生時のレジストリの復元方法を確認してください (レジストリ エディタのヘルプで「レジストリを復元する」を参照してください)。レジストリ キー設定の変更に関するご質問は、Cisco TAC にお問い合わせください。

- ステップ 5** レジストリの現在のバックアップがない場合は、[レジストリ] > [レジストリ ファイルの書き出し] をクリックし、ファイルにレジストリ設定を保存します。
- ステップ 6** 次の 2 つのレジストリ キーを削除します。
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\App Management\ARPCache\LightningFAX 6.5 - PrintToMail
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\ControlSet002\Control\Print\Monitors\LightningFAX
- ステップ 7** Regedit を終了します。

ViewMail 5.0(1) のダウンロード

ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページから ViewMail をダウンロードするには、次の手順を実行します。

ViewMail 5.0(1) をダウンロードする

- ステップ 1** ファイルの解凍場所として使用するコンピュータのハード ディスク空き領域が、ファイルのダウンロードに必要な領域の他に 4MB 以上あることを確認します (ダウンロード ファイルのサイズは、ダウンロード ページに表示されます)。
- ステップ 2** 高速インターネット接続が可能なコンピュータで、ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページ (<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/unity-vm>) に移動します。



(注) ソフトウェア ダウンロード ページにアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログインする必要があります。

ステップ 3 CiscoUnity.VMO5.0.1.exe ファイルを任意のディレクトリにダウンロードします。

ステップ 4 CiscoUnity.VMO5.0.1.exe をダブルクリックし、画面の指示に従って選択したネットワーク ドライブの任意のディレクトリにファイルを解凍します（あるいは書き込み可能な CD に解凍して、後でネットワークにコピーします）。

選択したディレクトリ内に CiscoUnity.VMO5.0.1 ディレクトリが作成され、そこにファイルが解凍されます。

ステップ 5 CiscoUnity.VMO5.0.1.exe ファイルを削除して、ハード ディスクの空き領域を増やします。

ViewMail インストールのカスタマイズ

次の項では、ViewMail インストールのカスタマイズ方法について説明します。ViewMail をカスタマイズする場合は、次の項の手順を実行してから、ViewMail をインストールする必要があります。ViewMail は次の方法でカスタマイズできます。

- [メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail をカスタマイズする \(P.9\)](#)
- [メッセージを保護するために ViewMail をカスタマイズする \(P.11\)](#)
- [ViewMail がメッセージの保護に使用する RPC 接続用に TCP ポートをカスタマイズする\(P.12\)](#)

メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail をカスタマイズする

Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook は、メッセージの録音用に G.7.1.1 または G.729a コーデック形式をサポートしています。録音には、コンピュータのマイクを使用するか、Media Master から Paste from File コマンドを使用してファイルをコピーし、G.729a 形式で貼り付けます。デフォルトでは、メッセージは G.711 形式で保存されます。

ViewMail によって、レジストリ キー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Default Wave Format がインストールされます。デフォルトでは、レジストリ キーは、メッセージの録音に G.711 形式を使用するように設定されています。G.729 形式を使用できるようにするには、管理者が ViewMail.msi ファイルのレジストリ キーの値を変更してから、ユーザーワークステーションに ViewMail for Outlook をインストールする必要があります。

ViewMail 4.2(2) 以降がユーザーワークステーションにすでにインストールされている場合は、ViewMail インストール プログラムを再度実行しても、レジストリ設定は変更されないことに注意してください。管理者は、設定管理ツール (Microsoft Systems Management Server など) を使用してレジストリ設定を変更するか、または ViewMail を一度アンインストールしてから ViewMail.msi ファイルの設定を変更し、再度 ViewMail をインストールする必要があります。

メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail をカスタマイズする

- ステップ 1** ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。このディレクトリへの書き込み権限がない場合は、書き込み権限のあるディレクトリにファイルを移します。
- ステップ 2** ViewMail ディレクトリで、ENU 言語ディレクトリ（またはユーザのインストールで該当する言語のディレクトリ）を表示します。
- ステップ 3** メモ帳などのテキスト エディタで VMOInit.vbs ファイルを開きます。
- ステップ 4** `Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"` 行の前にある `rem` テキストを削除します。

次の例を参考にしてください。

```
Function VMOInitFn()
rem Session.Property("EXTENSION") = ""
rem Session.Property("UNITYSERVER") = ""
rem To enable NoTextToVM, set property NOTEXTTOVM to 1
rem Session.Property("NOTEXTTOVM") = "1"
rem To enable g729a recording, set property DefaultWaveFormat to 5
Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"
rem To enable secure messaging, set property ForceMessagesSecure to 1 (Always Force
Messages Secure) or 2 (Allow User To Choose).
rem By default, it is set to 0 (Always Send Messages Unsecure).
rem Session.Property("ForceMessagesSecure") = "1"
rem To change RPC Port Number for Encryption and Decryption, set property
RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption to a new port number.
rem By default, it is set to 5050.
rem Session.Property("RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption") = "5050"
End Function
```

- ステップ 5** スクリプト ファイルを保存し、テキスト エディタを閉じます。
- ステップ 6** [コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます (Windows の [スタート] メニューで、[プログラム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト] をクリックします)。
- ステップ 7** ViewMail > ENU ディレクトリ (またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ) に移動します。
- ステップ 8** 「`vmaddbin ViewMail.msi VMOInit.vbs`」と入力し、**Enter** を押します (スクリプトが完了すると、カーソルがコマンドラインに復帰します)。
- ステップ 9** テスト機で ViewMail.msi ファイルを実行し、インストールが正常に完了したことを確認します (インストールが正常に完了しなかった場合は、VMOInit.vbs に対して行われた変更を確認してください)。
- ステップ 10** [コマンド プロンプト] ウィンドウを閉じます。

メッセージを保護するために ViewMail をカスタマイズする

ユーザの Cisco Unity システムが、メッセージの保護機能を使用する設定の場合、ViewMail は、Cisco Unity サーバとの接続が確立できるときにのみ保護されたメッセージの再生および送信が可能です。ViewMail によってレジストリ キー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Force Messages Secure がユーザ ワークステーションにインストールされます。ユーザが Outlook をオフライン モードで使用中に ViewMail を使用して保護されたメッセージを送信しようとするか、ViewMail for Outlook が何らかの理由で Cisco Unity サーバと通信できない場合は、ViewMail は、レジストリ キーの値に応じて次のいずれかの操作を行います。

- 0—Cisco Unity サーバとの接続を試行せずに、メッセージを暗号化せずに送信する。
- 1—Cisco Unity との接続が確立できなかったという警告をユーザに通知する(ユーザはこのメッセージを保存し、後で再送信する必要があります)。
- 2—メッセージは暗号化されないことをユーザに警告し、暗号化しない送信というオプションを提示する。

レジストリ キーはデフォルトでゼロに設定されます。この設定では、Cisco Unity サーバとの接続は試行されず、メッセージは暗号化されずに送信されます。メッセージを暗号化して ViewMail から送信するには、管理者は ViewMail.msi ファイルのレジストリ キーの値を変更してからユーザ ワークステーションに ViewMail for Outlook をインストールする必要があります。

ViewMail 5.0(1) 以降がユーザ ワークステーションにすでにインストールされている場合は、ViewMail インストール プログラムを再度実行しても、レジストリ設定は変更されないことに注意してください。管理者は、設定管理ツール (Microsoft Systems Management Server など) を使用してレジストリ設定を変更するか、または ViewMail を一度アンインストールしてから ViewMail.msi ファイルの設定を変更し、再度 ViewMail をインストールする必要があります。

ViewMail.msi ファイルでレジストリ キー値「Force Messages Secure」をカスタマイズする

- ステップ 1** ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。このディレクトリへの書き込み権限がない場合は、書き込み権限のあるディレクトリにファイルを移します。
- ステップ 2** ViewMail ディレクトリで、ENU 言語ディレクトリ (またはユーザのインストールで該当する言語のディレクトリ) を表示します。
- ステップ 3** テキスト エディタで VMOInit.vbs を開きます。
- ステップ 4** `Session.Property("ForceMessagesSecure") = "1"` 行の前にある `rem` テキストを削除します。

次の例を参考にしてください。

```
Function VMOInitFn()
rem Session.Property("EXTENSION") = ""
rem Session.Property("UNITYSERVER") = ""
rem To enable NoTextToVM, set property NOTEXTTOVM to 1
rem Session.Property("NOTEXTTOVM") = "1"
rem To enable g729a recording, set property DefaultWaveFormat to 5
rem Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"
rem To enable secure messaging, set property ForceMessagesSecure to 1 (Always Force
Messages Secure) or 2 (Allow User To Choose).
rem By default, it is set to 0 (Always Send Messages Unsecure).
Session.Property("ForceMessagesSecure") = "1"
rem To change RPC Port Number for Encryption and Decryption, set property
RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption to a new port number.
rem By default, it is set to 5050.
rem Session.Property("RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption") = "5050"
End Function
```

- ステップ 5** ViewMail for Outlook がオフライン モードにあるときに暗号化されたメッセージの送信をユーザが選択できるようにするには、「1」を「2」に変更します。
- ステップ 6** スクリプト ファイルを保存し、テキスト エディタを閉じます。
- ステップ 7** [コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます (Windows の [スタート] メニューで、[プログラム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト] をクリックします)。
- ステップ 8** ViewMail> ENU ディレクトリ (またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ) に移動します。
- ステップ 9** 「vmaddbin ViewMail.msi VMOInit.vbs」と入力し、Enter を押します (スクリプトが完了すると、カーソルがコマンドラインに復帰します)。
- ステップ 10** テスト機で ViewMail.msi ファイルを実行し、インストールが正常に完了したことを確認します (インストールが正常に完了しなかった場合は、VMOInit.vbs に対して行われた変更を確認してください)。
- ステップ 11** [コマンド プロンプト] ウィンドウを閉じます。

ViewMail がメッセージの保護に使用する RPC 接続用に TCP ポートをカスタマイズする

Cisco Unity システムがメッセージの保護機能を使用する設定の場合は、Cisco Unity は、ViewMail クライアントからの着信 RPC 接続要求に TCP ポート番号 5050 を使用して、保護されたメッセージを暗号化および復号化します。ほとんどの場合に、デフォルトの設定で問題ありません。ただし、ファイアウォール用にポートを変更する場合があります。このときは未使用の TCP ポートを使用できます。使用中のポートを変更する場合は、Cisco Unity サーバと ViewMail クライアントワークステーションの両方で設定を変更する必要があります。

Cisco Unity サーバを設定する手順の詳細については、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_maintenance_guides_list.html にある

『Cisco Unity セキュリティ ガイド』の「ユーザ メッセージの保護」の章の「ViewMail for Outlook がメッセージの暗号化と暗号解除に使用する TCP ポートのカスタマイズ」の項を参照してください。

ViewMail によってレジストリ キー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\RPC Port Number for Encryption and Decryption がユーザ ワークステーションにインストールされます。

ViewMail 5.0(1) 以降がユーザ ワークステーションにすでにインストールされている場合は、ViewMail インストール プログラムを再度実行しても、レジストリ設定は変更されないことに注意してください。管理者は、設定管理ツール (Microsoft Systems Management Server など) を使用してレジストリ設定を変更するか、または ViewMail を一度アンインストールしてから ViewMail.msi ファイルの設定を変更し、再度 ViewMail をインストールする必要があります。

ViewMail.msi ファイルで TCP ポートのレジストリ キー値をカスタマイズする

- ステップ 1** ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。このディレクトリへの書き込み権限がない場合は、書き込み権限のあるディレクトリにファイルを移します。

- ステップ 2** ViewMail ディレクトリで、ENU 言語ディレクトリ（またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ）を表示します。
- ステップ 3** テキスト エディタで VMOInit.vbs ファイルを開きます。
- ステップ 4** Session.Property (“RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption”) = “5050” 行の前にある rem テキストを削除します。

次の例を参考にしてください。

```
Function VMOInitFn()
rem Session.Property("EXTENSION") = ""
rem Session.Property("UNITYSERVER") = ""
rem To enable NoTextToVM, set property NOTEXTTOVM to 1
rem Session.Property("NOTEXTTOVM") = "1"
rem To enable g729a recording, set property DefaultWaveFormat to 5
rem Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"
rem To enable secure messaging, set property ForceMessagesSecure to 1 (Always Force
Messages Secure) or 2 (Allow User To Choose).
rem By default, it is set to 0 (Always Send Messages Unsecure).
rem Session.Property("ForceMessagesSecure") = "1"
rem To change RPC Port Number for Encryption and Decryption, set property
RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption to a new port number.
rem By default, it is set to 5050.
Session.Property("RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption") = "5050"
End Function
```

- ステップ 5** 行の「5050」の部分を Cisco Unity サーバに入力した TCP ポート番号に変更します。
- ステップ 6** スクリプト ファイルを保存し、テキスト エディタを閉じます。
- ステップ 7** [コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます (Windows の [スタート] メニューで、[プログラム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト] をクリックします)。
- ステップ 8** ViewMail> ENU ディレクトリ (またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ) に移動します。
- ステップ 9** 「vmaddbin ViewMail.msi VMOInit.vbs」と入力し、Enter を押します (スクリプトが完了すると、カーソルがコマンドラインに復帰します)。
- ステップ 10** テスト機で ViewMail.msi ファイルを実行し、インストールが正常に完了したことを確認します (インストールが正常に完了しなかった場合は、VMOInit.vbs に対して行われた変更を確認してください)。
- ステップ 11** [コマンド プロンプト] ウィンドウを閉じます。

ViewMail 5.0(1) のインストール

ViewMail は、さまざまな方法で組織内のユーザ ワークステーションにインストールできます。インストールおよび展開には、次のような方法があります。

- ViewMail をディスクまたはネットワーク ドライブからインストールする。P.15 の「Cisco Unity ディスクまたはネットワーク ドライブからの ViewMail 5.0(1) のインストール」を参照してください。また、ユーザが自分で ViewMail をインストールできるように、ViewMail セットアップ プログラムへのネットワーク アクセスを提供し、手順を通知することも検討してください。
- Microsoft IntelliMirror や Systems Management Server (SMS) バージョン 1.2/2.0 などのソフトウェア配布ツールを使用して、ViewMail を複数のユーザ ワークステーションに一度に展開する。これらのツールの使用法については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

IntelliMirror を使用して ViewMail を展開する場合は、個々のユーザではなくコンピュータに対して ViewMail を割り当てて配布します。また、IntelliMirror や SMS を利用して ViewMail の将来のアップグレードを配布することもできます。

- Office 2000 パッケージ、Office XP パッケージ、または Office 2003 パッケージの一部として、Microsoft Office とともに ViewMail を展開する。



注意

ユーザワークステーション上に新しいバージョンの Microsoft Outlook をインストールする場合は、最初に ViewMail をアンインストールする必要があります。Microsoft Outlook をインストールした後で、ViewMail を再インストールします。この作業を行わない場合、ViewMail は新しいバージョンの Outlook とともに正しくインストールされているように見えても、実際は機能しません。

デフォルトでは、ViewMail のファイルは C:\Program Files\ViewMail ディレクトリにインストールされます。ViewMail を初めてインストールする場合は、別のディレクトリを指定することもできます。ViewMail バージョン 4.0x からアップグレードしている場合、バージョン 5.0(1) は前のバージョンと同じディレクトリにインストールされます。

ViewMail では、次のファイルとレジストリ キーをインストールして使用します。

ファイル ¹	<ul style="list-style-type: none"> • AvResLoaderSvrSL.dll • AvResSvr.dll • AvTrapConnectionHolderSvr.dll • AvTsmSL.dll • AvVox.acm • AvWavSL.dll • SL_g729a.acm
レジストリ キー	<ul style="list-style-type: none"> • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles\default • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Options • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Active Voice • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Default Wave Format • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Force Messages Secure • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\NoTextToVM • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\RPC Port Number for Encryption and Decryption • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Profiles\<subscriber 1 alias> • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Profiles\<subscriber 2 alias> • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Exchange\Client\Extensions\ViewMail Extensions

1. Windows のバージョンに応じて、ファイルは C:\Windows\System、C:\Winnt\System32、または C:\Windows\System32 のいずれかのディレクトリにインストールされます。

Cisco Unity ディスクまたはネットワーク ドライブからの ViewMail 5.0(1) のインストール

Cisco Unity ディスクまたはネットワーク ドライブからユーザが使用するワークステーションに ViewMail をインストールするには、この項の手順を実行します。1 台のワークステーションを共有する複数のユーザ用に ViewMail をインストールすることもできます。

Cisco Unity ディスクまたはネットワーク ドライブから ViewMail 5.0(1) をインストールする

- ステップ 1** ViewMail の要件が満たされていることを確認します。P.2 の「要件」を参照してください。
- ステップ 2** Cisco Unity 5.0(1) DVD 1 または ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。
- ステップ 3** ViewMail ディレクトリで、該当する言語のフォルダを表示します (ViewMail ディレクトリには、ViewMail がサポートしている言語ごとに個別のフォルダがあります)。
- ステップ 4** ViewMail.msi ファイルをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の指示に従ってインストールを完了します。

制約および制限事項

Authentium Command AntiVirus for Windows はサポートされない

Authentium Command AntiVirus for Microsoft Windows は、Cisco Unity のユーザワークステーションではサポートされません。

ユーザワークステーション上の一部のソフトウェアによって ViewMail がエラーになる

一部のセキュリティソフトウェアおよび VPN ソフトウェアがユーザワークステーションにインストールされていると、ユーザが電話を Media Master の再生デバイスとして使用したときに、ViewMail がエラーになる可能性があります。特に、パーソナルファイアウォールを提供するソフトウェアでは問題が発生しやすいと考えられます。

セキュリティソフトウェアと VPN ソフトウェアを使用不可にするか、ユーザワークステーションから削除してください。または、ユーザが ViewMail のメッセージをコンピュータのスピーカで再生できるように Media Master を設定します。

ユーザのメールボックスがいっぱいになると ViewMail フォームがロードされない

ユーザのメールボックスが [送受信を禁止する] の制限値に達している場合は、ユーザが Outlook を起動しても ViewMail はロードされません。ViewMail フォームは、メールボックスのサイズを小さくするまでパブリッシュできません。

ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない

ViewMail バージョン 3.1(x) または 3.0(x) をアンインストールしようとする、ViewMail は通常、完全にアンインストールできません。一部の ViewMail ファイルがユーザワークステーションに、ViewMail のコンポーネントが Outlook に残ります。また ViewMail は、Windows の [アプリケーションの追加と削除] のリストから削除されません。さらに、ViewMail バージョン 3.x をアンインストールすると、Windows 2000 の Dr.Watson エラー ログまたは Windows 98 のアプリケーション違反エラーが生成されます。

詳細については、警告 CSCdv16845 を参照してください。Bug Toolkit は、http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl から入手できます。

この警告は ViewMail 4.0(x) では解決されていますが、それ以前のバージョンでは解決されていないことに注意してください。以前のバージョンの場合は、次の 3 つの手順を順番に実行して、ユーザワークステーションから残りの ViewMail ファイルを、Outlook から ViewMail コンポーネントを、また Windows の [アプリケーションの追加と削除] から ViewMail のリストを、それぞれ手動で削除します。

ユーザワークステーションから ViewMail ファイルを削除する

-
- ステップ 1** Program Files\ViewMail ディレクトリとそのコンポーネントをすべて削除します。
- ステップ 2** 次の 7 つのファイル（存在する場合）を、Windows のバージョンに応じて C:\Windows\System、C:\Winnt\System32、または C:\Windows\System32 のいずれかのディレクトリから削除します。
- AvResLoaderSvrSL.dll
 - AvTrapConnectionHolderSvr.exe
 - AvTsmSL.dll
 - AvVox.acm
 - AvWavSl.dll
 - AvResSvr.dll
 - SL_G729A.acm
-

Outlook から ViewMail コンポーネントを削除する

-
- ステップ 1** Outlook の [ツール] メニューで、[オプション] をクリックします。
- ステップ 2** [その他] タブをクリックし、[詳細オプション] をクリックします。
- ステップ 3** [詳細オプション] ダイアログボックスで、[ユーザ設定フォーム] をクリックします。
- ステップ 4** [オプション] ダイアログボックスで、[フォームの管理] をクリックします。
- ステップ 5** [フォーム マネージャ] ダイアログボックスの [個人用フォーム] に ViewMail for Outlook が表示されていることを確認します。
- ステップ 6** [ViewMail for Outlook] を選択し、[削除] をクリックします。プロンプトが表示されたら、[はい] をクリックしてフォームを削除します。
- ステップ 7** [閉じる] をクリックして、[OK] をクリックします。
- ステップ 8** [詳細オプション] ダイアログボックスで [アドイン マネージャ] をクリックします。
- ステップ 9** [アドイン マネージャ] ダイアログボックスで、[ViewMail Extensions] チェックボックスのチェックを解除して、[OK] をクリックします。
- ステップ 10** [OK] をクリックして残りのダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 11** Regedit を起動します。



注意

不正なレジストリ キーの変更や、不正な値の入力によって、ワークステーションが起動しなくなることがあります。レジストリを編集する前に、問題発生時のレジストリの復元方法を確認してください（レジストリ エディタのヘルプで「レジストリを復元する」を参照してください）。レジストリ キー設定の変更に関するご質問は、Cisco TAC にお問い合わせください。

ステップ 12 レジストリの現在のバックアップがない場合は、[レジストリ] > [レジストリ ファイルの書き出し] をクリックし、ファイルにレジストリ設定を保存します。

ステップ 13 次のキーを展開します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Exchange\Client\Extensions

ステップ 14 [ViewMail Extensions] キーを削除します。

ステップ 15 Regedit を終了します。

ステップ 16 Outlook を再起動します。

Windows の [アプリケーションの追加と削除] のリストから ViewMail を手動で削除する

Microsoft Product Support Services Web サイトの Knowledge Base 記事 247501 (*How to Manually Remove Programs from the Add/Remove Programs List*) を参照してください。

Windows ターミナル サービスはサポートされない

Windows Terminal Services (WTS; Windows ターミナル サービス) は、ViewMail を使用するユーザワークステーションではサポートされません。

YAMAHA 製のシンセサイザ ソフトウェアはサポートされない

YAMAHA 製のサウンド シンセサイザ ソフトウェアは、ViewMail を使用する Cisco Unity ユーザワークステーションではサポートされません。

警告

この項には、重大度 1、2、および 3 の警告が記載されています。

顧客が必要に応じて問題点を問い合わせることができるオンライン ツール、Bug Toolkit を使用して、すべてのリリースについての重大度の警告だけでなく、ViewMail for Outlook バージョン 5.0(1) に関する最新の警告情報も検索できます。Bug Toolkit は、http://www.cisco.com/pcgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl から入手できます。



(注) Bug Toolkit にアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログオンする必要があります。

この項には、ViewMail for Outlook リリース 5.0(1) に関する警告だけが記載されています。ViewMail の以前のバージョンに関する警告については、当該バージョンのリリース ノートを参照してください。ViewMail for Outlook のどのバージョンのリリース ノートも、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_release_notes_list.html から入手できます。

Release 5.0(1) の未解決の警告

Bug Toolkit で警告に関する最新情報を表示するには、警告番号の列のリンクをクリックしてください。

表 1 ViewMail リリース 5.0(1) の未解決の警告

警告番号	コンポーネント	重大度	説明
CSCsc17733	mediamaster	3	MMC dropdown menu sometimes does not allow config of play/record devices
CSCsc17824	viewmail	3	VMO sometimes saves copy of voice msg in the Outbox folder in Outlook

Release 5.0(1) の解決済みの警告

Bug Toolkit で警告に関する最新情報を表示するには、警告番号の列のリンクをクリックしてください。

表 2 ViewMail リリース 5.0(1) の解決済みの警告

警告番号	コンポーネント	重大度	説明
CSCsf03101	viewmail	3	VMO: Upgrading to 4.21,4.22, 5.0 does not retain some registry settings

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, *Packet*, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0705R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Copyright © 2007, Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 (シスコ コンタクトセンター)

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter>

0120-933-122 (通話料無料)、03-6670-2992 (携帯電話、PHS)

電話受付時間: 平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00